新・山と花のたより 280号

２０２４年２月１５日　　松尾　忠
メールアドレス　tadashi6414@smile.ocn.ne.jp
ＨＰhttp://yama-to-hana-no-tayori.sakuraweb.com/

病と闘う友を見舞い、　2024 年 1 月 17 日～18
帰途同窓生仲間と山口・秋吉台に

今まで、幾度となく記してきたが、私たち長崎西高 12 回卒生有志は、長い間「同窓会登山」を続けてきた。その登山仲間たちも今年でほとんどの人が 82 歳となった。高齢化に伴い、鬼籍に入った人も出、足腰の弱化や疾病で参加を見合わせる仲間も徐々に増え、もう例会を開くことも無くなった。

事務局を担ってくれた田崎ご夫妻

この同窓会登山が長い間、大きな事故も混乱もなく、継続してきたのにはひとえに田崎隆哉・瑞穂ご夫妻の献身的で粘り強い事務局活動があったからだ。同期同窓生同士のご夫婦だったので、男性、女性それぞれの交流・交際範囲の接点の位置をおのずと占めることになったのも事務局活動に好都合だったのかも知れない、

煩雑な事務局の仕事を献身的に

山行計画が出来ると対象者への文書・電話・メール等による連絡、参加者の声を聴いて、登山グループと「観光」グループの編成、レンタカーとその運転手の選定、会費の徴収と旅先での支払い、事後の会計報告、参加者から寄せられる、文体も形式も様々な感想文の印字と文集の編集、その文集の発送実務などなど、多岐にわたる煩雑な作業をお二人でこなしていただき、思い返しても感謝の念にたえない。

会食しながら田崎瑞穂さんを激励

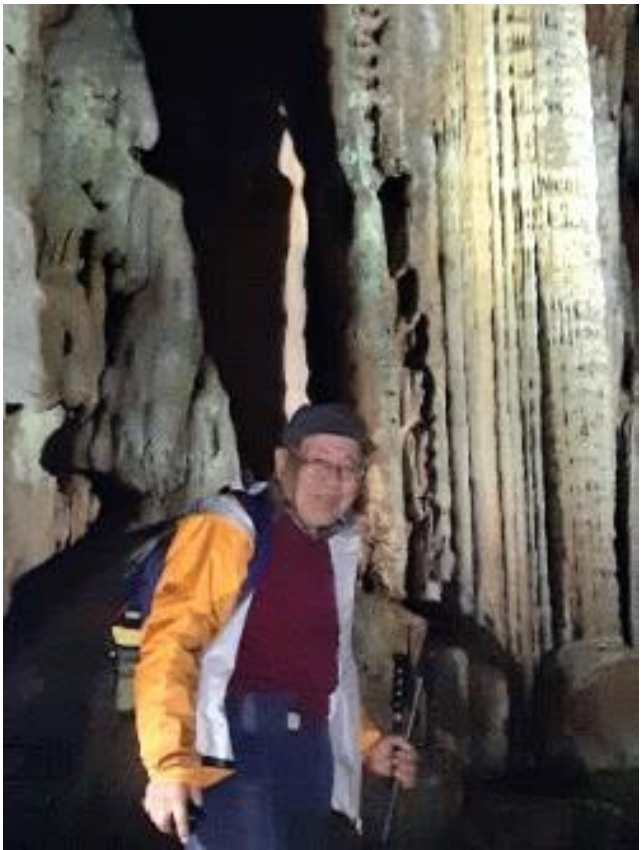
その田崎瑞穂さんが闘病生活に入ってかなりの時間が経った。心配する声は多々あったが、いかんせんコロナ禍の最中であり、夫君の隆哉氏すら、なかなか面会できない状況が続いた。

年も明け、隆哉氏から「久々に外食の許可が出る」との報に接した私たちは、さっそく田崎ご夫妻との会食による“お見舞い”を予定したところ、福岡県北部在住の平山衛、白石廣海、川端史子各氏も参加してくれるという。

こうして１月１７日、田崎家近くの洒落たレストランで瑞穂さんを囲む“８人の会食”が実現。

車いすで現れた瑞穂さんは、やせてはいたものの、にこやかな笑顔は瑞穂さんのもの。

おしゃべりも往年の状態には及ばないものの、みんなの会話に普通に加わって健在ぶりを見せていた。



久々の再会、名残は尽きず

全員が、それぞれに久々の邂逅、中には高校卒業以来の再会という人たちも居て、話は尽きない。

が、瑞穂さんは、時間制限付きの外出、瑞穂さんとの別れを

惜しみつつ、またの約束を交わして散会となった。

翌日４人で秋吉台に

散会後、引き返して新山口駅前のホテルに泊まり、翌１８日駅前から始発バスで秋吉台へ。

日本最大のカルスト台地・秋吉台は太古の海底で形成された石灰岩の地層がプレート運動によって大陸プレートの上に乗り上げたもので、以後３億５千万年という長い歳月をかけて自然が創り上げたもの。

水の浸食が創り上げた秋芳洞

カルスト地形の特徴でもある鍾乳洞、なかでも日本三大鍾乳洞のひとつ秋芳洞は秋吉台の顔。

中に入ると、まずその大きさに驚く。見上げるばかりの高い天井、清流を挟んで、続いている大きな空間、大小さまざまな鍾乳石と石筍、その鍾乳石と石筍とがつながった石柱、壁に沿ってかたちづくられた黄金柱（前ページの写真）や棚田状に大小の池が連なる百枚田（上の写真）などなど、長い歳月をかけて自然が創り出した造形のすごさに圧倒される。

エレベーターで地上に

洞窟の途中にエレベーターがあり、それで一旦地上に出た。そこにはカルスト展望台、秋吉科学博物館などがある。科学博物館では秋吉台の成り立ち、ここで見つかる様々な化石、動植物のはく製や標本などなどが展示されていて、日本一のカルスト台地を創造した大自然の壮大な営みが理解できる。

白い石灰岩を浮かべた丘陵の連なり

展望台から眺める秋吉台は、幾重にも連なる丘陵を草原が覆い、至る所に白い石灰岩を浮かべて独特の景観を見せている。

草原をいくつにも分かつひだや、ドリーネと呼ばれるすり鉢状のくぼみやその連なりなどが、丘陵に凹凸をつけて草原を一層魅力的に仕上げている。草原に花が姿を見せる季節に再度訪れたいと思った。